

令和5年度 「理数科講演会③」

- [目的] 大学の講義に直に触れ、学問に対する知的好奇心を高め、学術研究への意欲を啓発する。また、進路及び将来の目標実現に向けて、日々の学習に対する意識を喚起する。
- [実施日] 令和6年2月8日（木） 本校 視聴覚室
- [参加者] 1学年 理数科予定者 32名
- [講師] 東北大学大学院 生命科学研究科 教授 渡辺 正夫 氏
- [テーマ] 演題「高校での理数探究が、大学・大学院での研究につながる」



[生徒感想]

- 平均が同じ50でも、0と100のように離れた値だったり49と51のように近い値だったりするので探究によってその過程を知ってもっと深く調べようとするのが大切だとわかりました。
- 来年の理数探究に向けて特に進め方やまとめ方などの点で参考になることが沢山あったので、しっかり覚えておいて役立てたいです。
- 本格的な理数探究は、何年もかかるものだということがわかった。だから、先輩方の探究を受け継いで、私たちが一年かけてさらに深めるというのも一つの手だなと思った。理数探究をするときはさまざまな細かいことに考慮して、時間をかけてやるものなんだなと思った。
- 理数探究のきっかけは日常生活に隠れていることがわかったので、毎日の生活で『不思議』を見つけていきたいです。

- ・今まで探究のテーマについて少し悩んだこともありましたが、今日の講演会がきっかけで、生活している中で感じる一瞬の興味がその探究のテーマに繋がることを知り、普段の生活で感じるふとした疑問を大切にしようと思いました。
- ・日々の生活で不思議に思ったことは自分なりに調べてみるのが理数探究に繋がることがわかったから、自分なりに調べてみたいと思った。
- ・研究をしていく中でグループでやるので、メンバーとどう連携していくか、リーダーとしての役割をどう考えていくかなど多くのことを学べたと思います。
- ・やはり仲間同士で協力し、みんなで役割分担をしながら研究内容、目標を決めたりして、理数探究を進めていくことが大事だと分かった。実験が終わるたびに結果をまとめる事や、発表する時に反応を見ながらや、その日の疑問をシェアする事などの基本的な事も分かった。
- ・この講演を聞いて、グループの活動はメンバーの皆で客観性を持てるような研究結果にすることが大切だとわかりました。
- ・これから理数探究を行っていく上で、どのような点に気をつけるべきかを知ることができた。そして、またこのような講演会が実施された場合には、もっと自信を持って、胸を張って積極的に質問ができるようにしたい。
- ・来年へ向けてとても有意義な時間になりました。理数探究が楽しみになりました。

「総合研究発表会」に参加しました！！

2月7日(水)に青森県総合社会教育センターにおいて、令和5年度「進学力を高める高校支援事業」総合研究発表会が行われました。これは、県内の高校で行われている様々な課題研究等の成果発表を一堂に会して行うもので、10チームが参加しました。本校2年理数科からは、弘前大学での発表会で総合研究発表会に推薦された、化学班の「New Power プラスチック～強く手頃でエコなプラスチック～」のチームが参加し、4月から取り組んできた課題研究の成果を発表しました。今回の発表会では農業高校、商業高校、水産高校などの発表もあり、内容もさることながら、発表の仕方やプレゼンテーションの仕方が素晴らしく、参加者は大変刺激を受けることができました。

